平成29年９月６日

平成29年度第６回教育委員会定例会会議録

鹿児島県教育委員会

平成29年度第６回教育委員会定例会会議録

日時　　平成29年９月６日（水）
　　１４時００分～１５時３５分

場所　　教育委員会室

出　席　者

古川教育長	谷口教育次長
	寺園教育次長
島津委員	奥　総務福利課長
	大園学校施設課長
今村委員	小屋敷教職員課長
	菊地義務教育課長
原之園委員	前田高校教育課長
	岩元保健体育課長
石丸委員	西橋社会教育課長
	松下文化財課長
	花月人権同和教育課長
	福田義務教育課特別支援教育室長
	寺前競技力向上対策室長
	石田尾高校総体推進室長
	清藤福利厚生監
	福永総務福利課企画監
	堀之内教職員課人事管理監
	平田義務教育課指導監
	福留高校教育課指導監
	川原生徒指導監
	村久木教職員課参事
	野村高校教育課参事
	坂口総務福利課長補佐

議　決　事　項

件　　名	提　　案　　理　　由	審議の状況	採決の次第
議案第１号 　教育委員会の事務の点検・評価について	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第１項の規定に基づき，教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について，点検及び評価を行おうとするものである。	特記事項なし	決　定
議案第２号 　平成29年度９月補正予算案についての知事への意見申出について	平成29年度９月補正予算案のうち教育に関する事務に係るものについて，知事に意見を申し出ようとするものである。	特記事項なし	決　定
議案第３号 　職員の懲戒処分について	学校職員の非違行為について，公務員又は教育公務員としての責任を問おうとするものである。	特記事項なし	決　定
議案第４号 　鹿児島県教育委員会委員の辞職に対する同意について	委員から提出された辞職願いについて，同意しようとするものである。	特記事項なし	決　定

会　　議　　要　　旨

１　開会

２　会議の公開等について

議案第２号から議案第４号まで並びにその他（４）及びその他（５）については，非公開で審議する旨，教育長から発議があり，全会一致で議決された。

３　平成29年度第５回教育委員会定例会の会議録の承認

承　　認

４　議案

議案第１号　教育委員会の事務の点検・評価について

（総務福利課企画監）地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第１項の規定に基づき，教育に関する事務の管理及び執行の状況について，点検及び評価を行おうとするものである。

（島津委員）　施策についての評価で，「事業の継続・充実が必要である」というのが８つあり，「確かな学力の定着」だけ「事業の一部見直しが必要である」ということだが，これはゆっくりとレベルを上げていく必要がある。急激に上げても意味がないと思うので，じっくりと定着できるようにしていただきたい。

それ以外については，概ね達成しているので，良いのではないかと思う。

（今村委員）　生涯学習関係で，県民大学講座を受講して修了することによって，大学での単位に結びつく部分はあるのか。

（社会教育課長）大学の単位には結びつかない。

（今村委員）　高校にしても大学にしてもそうだとは思うが，自分のところで取得した単位だけを認めるのではなく，いろいろなところで取得した単位も認めるような動きがあるかと思うが，そのようにリンクすることができるのか。できていなければ，今後，生涯学習とリンクできるようにすると，現在行っていることが実際の社会とよりつながるのではないかと思う。

（教育長）　公的な資格や認定とリンクしているかという質問だが，現状ではリンクしていないということでよいか。

（社会教育課長）リンクしていない。

（教育長）　修了認定書を交付し，優先的にいろいろな地域で生涯学習での

指導者として活躍していただいているが，公的な資格認定とのリンクはなかなか難しいと思う。

（今村委員）　例えば，放送大学では，一部の講座で取得した単位は，現在だといろいろな大学の単位として認められている。したがって，働きながら単位を取得して，一時期，集中的に大学に入ると，大学での期間も短縮できるのではないか。今後そのような流れになってくると思う。

（島津委員）　「生涯学習環境の充実」で，前年度の実績を入れていただいたが，評価という意味では，今年度の活動に効果があったと分かりやすくなったので，今後このような形で進めていただきたい。

（教育長）　「へき地・小規模校教育の振興」の評価委員の意見・提言において，「学校と家庭間をつなぐＩＣＴ活用」とある。徳之島の学校現場を見させていただいたことがあるが，イメージが浮かばない。これは家庭とＩＣＴがつながっているのか。

（義務教育課長）テレビ会議でその家庭と学校をつなぐというイメージではない。タブレットを家庭に持ち帰って予習をするなど，家庭と上手く連携しながらＩＣＴを活用することで，小規模校においても，しっかりと授業の準備をして臨むよう行っている。そこを意識した意見ではないかと思う。

（教育長）　異議がないようなので，議案第１号は原案のとおり議決する。

５　その他

(1)　平成29年度公立小中学校管理職任用標準試験の概要について

（教職員課長）　平成29年度公立小中学校管理職任用標準試験の受験者の状況，試験の内容及び今後の日程等について説明

（島津委員）　受験者数が減っているが，女性の管理職への希望はどのような状況なのか。

（教職員課長）　受験者数については，昨年度は300人を超えており，総数としては，22人減となっている。女性の受験者数は20人程少なくなっている。

管理職の登用等については，女性管理職の割合を増やすこととしており，例年横ばい，若しくは微増の状況である。

（原之園委員）　管理職になって，学校や子供たちをしっかりと引っ張っていこうというリーダーシップを発揮する受験者は増えているのか。最近の受験者の傾向はどうか。

（教職員課長）　受験対象者の数は年々減少している。特に，受験者数の割合の多い35歳から39歳までが減少している。また，免許更新制に係る講座の受講等により受験者数が減少したのではないかと考えている。

実際に受験者の面接等をしていただいた委員の方々からは，実践もきちんとした人や経営の意欲を持っている人が多かったという御意見をいただいたところである。

(2)　平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について

（義務教育課長）平成29年度全国学力・学習状況調査の概要，参加状況，本県の学力調査の結果及び公表等について説明

（島津委員）　これはあくまでも平均なので，なかなか言いづらいところはあるが，個別にしっかり分析した上で，対応していただきたい。

気になるのは，Ｂ問題が下回っていることである。東京の国立情報学研究所によると，国語の文章を理解できていない中学生が多く，３割程度の中学生が理解していないとの研究結果が出た。理解していない中で問題を読んだとき，何を言っているのか分かっていないという結果も出ているので，本当に文章を理解できていないのではないか。

そのように考えたとき，応用問題がますます分からなくなるので，そのような視点からの取り組み方を考えてみる必要があると思う。

（義務教育課長）国立情報学研究所の研究成果は非常に面白いと思っていたところである。中央教育審議会の答申の中では，その研究の成果も踏まえていたと思うが，教科書ですらしっかりと読めていない子供が多いのではないかということと，小学校低学年からの語彙の量がその後の学力との関係があるのではないかということも言われている。

実際，その学力調査の中では，本当に問題を読めているのか，読めていないのかということを分析するのは難しいが，研究の内容を脇に置くわけにもいかない。

今回のＢ問題の結果だけでなく，例えば，学習定着度調査のこれまでの出題などの分析をする中で，考えさせることや実際に表現してみること，点数が高いか低いかではなく，しっかりとした文章を書けているかということも見通した上で，国語を中心とした言語能力育成についての施策や取組ができないかと悩んでいるところである。

例えば，読書活動は，全国で見ても非常に水準が高いと言われている。非常に良い読書が行われているが，学校によっては，貸出カードに借りた本のリストを並べていくことが目標になってしまっているところもあり，それは良くない。

先日開催されたビブリオバトルのような，読んだ本を人に伝え

られる活動を通じて，読書を量だけでなく質のところまで広げていく取組を小中学校でも広げていきたいと考えている。
　そのような意味で，読解力や文章理解能力を考えると，Ｗｅｂシステムで表現力や思考力を深めるような問題にもチャレンジしてもらって，定着しているかどうかをしっかり見てもらう。そのような取組を組み合わせていくことができないかと考えているところである。

（原之園委員）　Ｗｅｂシステムの活用が小学校８割と中学校７割なので，100％に近づけるような呼び掛けをしていただきたい。
　６０・９０運動などで家庭学習を呼び掛けているが，そこまで広げていかないと，家庭学習の習慣化にならない。ＰＴＡ等を通じて声掛けをしていくことも大事だと思う。
　また，新聞を読まない子供が多いようである。新聞を読むことによって，読解力を身に付けることができるので，新聞を読むような呼び掛けをすることも大事だと思う。

（義務教育課長）Ｗｅｂシステムの活用を100％に近づけるように，市町村にＷｅｂシステムの良さを伝え，必ず使うよう引き続き強く呼び掛けていこうと考えているが，使ってくださいと言うだけでなく，このような単元でこのような問題があるとしっかりと整理した上で，先生が使って喜ばれるような工夫を考えていきたい。
　併せて，家庭学習について，各市町村で６０・９０運動の取組が進んでいる。例えば，学習の習慣がついた後は，60分と90分の質をどう高めていくかということが，今後の研究テーマになるかと思う。主体的・対話的で深い学びは，授業の中だけでなく，学ぶ単元を通して，内容のまとまりごとに学校で学んだり，家に持ち帰って自分で考えたり，バランス良く授業を組み立てていく必要がある。
　新聞を読まない子供については，やはり活字離れは将来良いことはないので，新聞だけでなく，教科書や教材など様々な文字を読むという活動を，先生が寄り添いながら，叙述に基づいた文章の読解がしっかりとできるように，学校や市町村教育委員会とも連携して，授業づくりを進めていきたいと考えている。

（石丸委員）　鹿児島の子供たちは，勉強の時間自体は普通よりも良いにもかかわらず，テストだけが全てではないが，なかなか学力に結びつかない。
　先ほど話のあった国語力となると，小学１年生の頃から語彙力を増やすための取組をした方がよい。例えば，大体の学校では，漢字の書き取りを毎日行っているが，ただ漢字を書くだけでなく，それに語彙を含めるなど，何か目的を持ったような宿題の出し方をするような指導が必要かと思う。
　あるいは，表現力の問題でいうと，昔は夏休みの宿題で，読書

感想文や作文が必須だったが，今はどちらかだけでよいところもある。いろいろなコンクールがあるので，取り組む目標をもっと提供するような工夫があると良い。せっかく勉強しているのに学力に結びつかないと，子供たちも保護者もなぜ鹿児島はだめなのかと思ってしまう。

また，結果だけで見ると，特に小学校での差よりも中学校での差が目立つ。少しずつの積み重ねが応用力になっていくときに，差が出てしまうのかと思う。家庭学習が本当に大切だと思うので，目標を持った指導をしていただきたい。

（義務教育課長）今年度はまだ分析中だが，昨年度の全国学力・学習状況調査では，鹿児島県の子供たちは本当に素直で良い子だと質問紙から見えてきており，家でしっかりと学校の勉強を復習していることなどを窺い知ることができる。

しかし，家で勉強するに当たって，自分で計画を立てて勉強しているかという項目については，全国よりも低い水準である。机に向かっているが，自分で考えて必要な事項を掘り下げることができていないのかと思う。漢字の書き取りや計算に加えて，授業と関連させて，何を必要として宿題を出しているのか，これも家庭学習の在り方を考えていく中で重要な視点であるので，それも含めて市町村とも話していきたいと思う。

読書感想文など夏休みの宿題については，詳細は把握していないが，ただ読むだけではない活動も非常に重要であると考えている。その効果や良い取組をどう広げていくか考えてきたい。

(3)　イングリッシュキャンプの実施状況について

（義務教育課長）イングリッシュキャンプの目的，参加者の状況，活動概要及び活動の様子等について説明

（島津委員）　先日開催された総合教育会議で，英語教育の推進についての話があったが，学校以外でも英語を使う場があると，子供の英語に対する意欲につながると思う。そのような意味では，このイングリッシュキャンプは有効だと思っている。応募総数219人，参加者80人ということだが，できれば応募枠をもっと増やしていただきたい。英語に関心を持てる子供が少しでも増えると良い。

また，このような形でなくても，もう少し軽い感じで，コミュニケーション能力を高められるような取組もあると更に良いと思う。

（教育長）　市町村で独自に行っている取組もたくさんあると思うが，何か情報はないか。

（義務教育課長）市町村で実施している取組がどのくらいの規模なのかという資料は今手元にないが，いくつかの市町村で，独自にイングリッシ

ュキャンプのような宿泊付きで実施していたり，年間に複数回実施している市町村があると聞いている。鹿屋市は年に５回くらい実施しようかと言っており，各自治体でも広がっているところである。県のイングリッシュキャンプに参加する80人以外にも英語と触れ合う機会を各自治体でも行っているので，重ねて参加している子供もいる状況である。

総合教育会議でもあったが，英語に触れる機会やネイティブの方と話す機会を増やすのは，非常に大切な視点だと思った。この３日間の宿泊の形がよいのか，業者にお願いする形がよいのか，改めて施策の在り方を考えていきたい。できるだけ多くの子供が参加して，英語を好きになるような取組ができないか研究していきたい。

（石丸委員）　イングリッシュキャンプに参加した子供たちは，キャンプに参加した後は英語の学習をどのように継続していくのか。例えば，イングリッシュキャンプで学んだことを学校で実践しているのか。

（義務教育課長）様々な学校から応募していただき，できるだけ学校が重ならないように参加者を選んでいる。学校に帰った後に，イングリッシュキャンプで学んだことを学校で還元しているかについては，現状としては分からないところである。

それぞれの参加者については，イングリッシュキャンプ３日間を通じて，このようなところをもっと頑張った方がよいというコメントをしている。それを踏まえて，自ら意欲を高めて学校での英語学習やその他の場所で自分で学んでみようというところにつなげていただいているというのが現状である。

(6)　平成31年度全国高校総体鹿児島県実行委員会第１回総会について

（高校総体推進室長）平成31年度全国高校総体鹿児島県実行委員会第１回総会の概要，今後の開催予定，実行委員会組織体制及び事業計画等について説明

（教育長）　全国高校総体がどのような形で開催されるのか説明していただきたい。

（高校総体推進室長）平成28年度の全国高体連中央委員会で，鹿児島県を含む，南部九州４県での開催が決定したところである。

全部で30競技34種目が開催されるが，そのうち，６競技７種目が鹿児島県で開催される。このインターハイについては，学校対抗の大会となる。

（教育長）　開催する４県はどこか。

（高校総体推進室長）鹿児島県，宮崎県，熊本県，沖縄県の４県である。

（教育長）　　総合開会式は鹿児島県で行うのか。

（高校総体推進室長）そのとおりである。

（島津委員）　　この間，南東北高校総体の総合開会式に行かせていただき，鹿児島県代表の生徒が一生懸命頑張っている姿を見させていただいたが，成績は例年と比べてどうだったのか。

（高校総体推進室長）８月20日まで開催され，昨年度は入賞数が29だったが，今年度は23という結果だった。ただし，優勝はフェンシング等があり，かごしま国体に向けて期待できる選手が出てきている。今後とも競技力の向上に努めていきたい。

６　議案

議案第２号　平成29年度９月補正予算案についての知事への意見申出について

（非公開）

７　その他

(4)　平成30年度公立高等学校生徒募集定員について

（非公開）

(5)　平成29年度学校保健・学校安全・学校給食文部科学大臣被表彰候補者の推薦について

（非公開）

８　議案

議案第３号　職員の懲戒処分について

（非公開）

議案第４号　鹿児島県教育委員会委員の辞職に対する同意について

（非公開）

９　閉会